

都道府県・指定都市番号	44	都道府県・指定都市名	大分県 佐伯市	研究課題番号・校種名	2 (4) 中学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	さいきしりつう めりよくほうちゅうがっこう 佐伯市立宇目緑豊中学校 (53人)				
所在地 (電話番号)	〒879-3205 大分県佐伯市宇目大字千束 1560-1 (TEL 0972-52-1016)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://tyu.oita-ed.jp/saiki/umeryokuhou/				
研究のキーワード	総合的な学習の時間 地域・保護者との協働 批判的な思考力 地方創生				
研究結果のポイント	○総合的な学習の時間や各教科等の学習において「身に付けたい7つの力」を明示することにより、生徒の「批判的な思考力」等を育成することができた。 ○ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習及び学習の振り返りにより、「批判的に考える力」や「コミュニケーションを行う力」等のE S Dの視点に基づいた力を育むことにつながった。 ○E S Dの視点から、総合的な学習の時間と各教科等の関連を明確にすることにより、「身に付けたい7つの力」を意識した学習活動を教育課程全体で行うことにつながった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「批判的な思考力」等を地方創生のエネルギーとするE S Dの推進

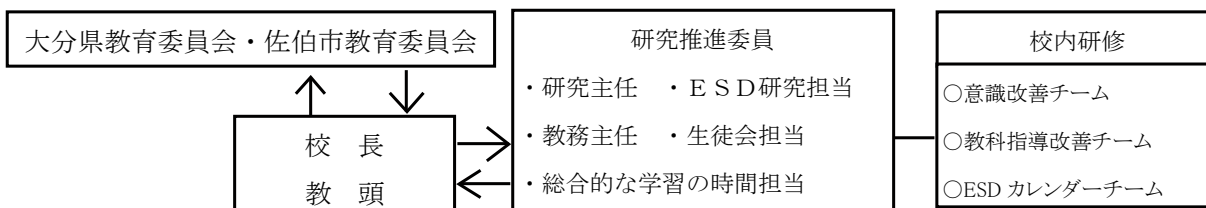
(2) 研究主題設定の理由

これまで総合的な学習の時間において、伝統芸能の継承や地域人材による出前授業の実施等、地域とのつながりを重視した取組を進めてきた。しかし、生徒自身で地域の課題を見だし、地域と協働しながら課題解決まで至った学習となりえていなかった。

そこで、改めて地域の歴史や文化、自然等に繰り返し関わり、地域の素晴らしさとともに、持続可能性を視点として課題を見だし、地域の人々と協働しながら課題解決を図ることとした。地域の歴史や文化、自然等に繰り返し関わることは、地域活性化を促進し、持続性に貢献することにつながるのではないかと考えた。

そのため、教育課程の編成に当たっては、E S Dを中心に置き、総合的な学習の時間及び各教科等においてE S Dの視点に立った学習を展開することにより、生徒に持続可能な社会づくりの担い手としての価値観を育成したいと考えた。その価値観の基盤となる、「ものごとを思慮深く建設的に、常に代替案の可能性を探りながら協調性を持って思考・判断し、グローバルに考え行動する力」(以下、本校でいうところの「批判的な思考力」等)の育成をねらいとした。本校として育成を目指す「批判的な思考力」等が、地域貢献や地域活性化へのエネルギーになることを期待して、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	5月	ESDの理解…生徒・保護者への広報活動 生徒へのアンケート調査①
	7月	自然体感キャンプ実施(第1学年:ユネスコエコパークとの関わり) 教職員対象のESD研修(濱野清 教育課程調査官招聘 福岡教育大学 石丸哲史教授招聘) 小中一貫教育・小中連携による研修会(東京学芸大学 成田喜一郎教授招聘)
	8月	第2学年社会科「世界から見た日本の資源・エネルギーと産業」
	9月	各教科等における批判的思考力等を育成する指導 (石丸哲史教授招聘) APUアジア太平洋大学の学生との交流(多様な価値観を理解できる生徒の育成)
	10月	授業提案(小中一貫教育校公開研究発表会:6年次)
	11月	第3学年総合的な学習の時間「宇目の未来を考えよう～20年後の宇目の未来～」 (地域人材を活用した総合的な学習の時間の展開について) 生徒及び教職員アンケート調査②
	1月 3月	成果と課題・資料等の作成・次年度の組織計画 ESDカレンダーの付加・修正
平成29年度	4月	新チーム編成及びESD研修会(昨年度の振り返り・年間計画・PDCA サイクル等)
	5月	ESDの理解…生徒・保護者へのESD説明会, ESD意識アンケート調査①
	6月	各チームの取組(6月～) ・教科指導改善チーム(ペア・グループ学習, 「7つの付けたい力」, 振り返り週間提案) ・意識改善チーム(SDGsとの関わりから世界へつながるESDの意識の醸成) ・ESDカレンダーチーム(ESDの視点から, 総合的な学習の時間と各教科等との関連を検討)
	7月	地域のユネスコエコパークの認定決定(自然と人間社会の共生) ESD意識アンケート調査② 校内ESD研究協議会 福岡教育大学 石丸哲史教授他・県教委 後藤指導主事・教育事務所 石川指導主事 市教委 石井指導主事の4名招聘(授業研究・全体会・チーム検討会)
	8月	週刊ESD新聞の発行 生徒から発信するESD(生徒会ESDサークルの取組)
	9月	九州大学訪問(大学との連携) 地域産業を知るフィールドワーク
	10月	PDCAサイクルによる振り返り(各チーム)
	11月	ESD公開研究発表会 (公開授業・研究発表・パネルディスカッション・記念講演)
	12月	ESD意識アンケート調査③ 造船所へのフィールドワーク
	1月	次年度に向けての振り返りと年間指導計画作成

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①意識改善チームによるESDへの意識の向上
- ②教科指導改善チームによる「付けたい力」の育成を目指した学習形態の在り方
- ③ESDカレンダーチームによる総合的な学習の時間と各教科等との関連付け

(2) 具体的な研究活動

①意識改善チーム(ESDについての意識を高める)

意識改善チームでは, 研究を進める上で, 持続可能な社会へつながる意識を高めることが重要と考え, 取組を進めた。

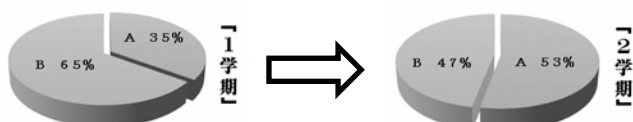
- 各教科等の学習において, ESDで「身に付けたい7つの力」を明示
- ESDに関わる考え方や取組を紹介する「ESD新聞」の発行
- 研修会の実施(講師を招いての研修)
- 保護者への説明会の実施

- 生徒会から発信するESDの取組(生徒会・ESDサークル)
- 「このままでいいのかな?」というESDの視点から生徒に問いかけ課題を意識させる校内掲示
- ESDの意識調査「身に付けたい7つの力」に関わる意識調査を年3回実施

また、一般的なESDのゴールとなるSDGsも提示して意識改善に取り組み、Glocal(グローバルな視点でローカルに行動する)につながる取組を意識して意識改善に臨んだ。

上記のアンケート調査から、教科等の取組で「批判的な思考力」が高まったことが確認できた。

☆「批判的な思考力」について
 A「十分あるいは、力がついてきた」
 B「あまり変化はない、またはわからない」と回答した生徒



②教科指導改善チーム(批判的に考える力, コミュニケーションを行う力を高める)

教科指導改善チームは、「身に付けたい7つの力」の中で特に「批判的に考える力」、「コミュニケーションを行う力」の向上を目指し、ペア・グループ学習の在り方に注目した。

○学習形態の在り方についての共通理解

- ・ペア学習, グループ学習の意義と編成の方法

○ねらいを明確にしたペア学習, グループ学習

- ・本時のめあてまたは課題と共に, 本時の学習において「付けたい力」を明示



7月の調査における生徒の自己評価では、「聞くこと」「協力すること」に比べると、「発信すること」の評価が低かったが、10月には「発信すること」について若干の改善が見られた。

③ESDカレンダーチーム(教育課程全体を見渡し, ESDとの関連を捉え可視化する)

- 総合的な学習の時間を中心として, 各教科等と「課題を見いだす6つの視点」や「身に付けたい7つの力」のつながりを明確にするとともに, 実践を重ねながら修正・改善していく。

ESDカレンダー作成手順

(ア)周りの自然や伝統, 人材, 生物, 産業など本校をとりまく環境に目を向け, ESDと関連する4つの項目に着目した。(①環境・エネルギー, 防災 ②生物多様性 ③国際理解 ④世界遺産や地域の文化財)

(イ)総合的な学習の時間は上記の4つの項目を扱うことにした。

(ウ)4つの項目と関連する単元(指導内容)を各教科等でピックアップした。

(エ)選んだ単元と関連する「身に付けたい7つの力」を明らかにし, 〈批〉〈協〉〈つ〉などの略語で示した。

(オ)特に, 総合的な学習の時間の内容と深い関わりがあると判断される単元は, 太線で囲み, 強調した。

ESDカレンダーの活用については模索中であるが、教科担当者が互いにカレンダーを見て、学習内容や「身に付けたい7つの力」を確認し合うことで、初めて価値が生み出される。教科等横断的な学習の構築に向けた授業者の意識の向上などから着手していきたいと考えているところである。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 総合的な学習の時間や各教科等の学習において「身に付けたい7つの力」を明示することにより、生徒の「批判的な思考力」等の向上が見られた。これまでのアンケート結果及び教育事業者の開発モニターで行った調査結果から2年間（2・3年生）で約7割の生徒の意識が向上している。
- 地域での体験活動を通して、地域創生のエネルギーに関わる「課題意識」が高まり、「持続可能な社会づくり」の視点を持って学習に臨む生徒が育ってきた。
- 教科指導でのペア・グループ学習の取組では、PDCA サイクルを通して「批判的な思考力」や「協働的な学習に取り組もうとする意思や態度」に向上が見られた。（アンケート結果から、協働しようとする意思を持つ生徒が約6割・主体的な生徒が約4割と向上傾向にある。）
- 生徒の「批判的な思考力」は向上してきたが、行動として動き出す力はまだ不足している。それはESDの視点を通して課題が何であるかを把握する力の育成がまだ十分でないこと等が考えられる。
- 各教科等の特質や、本時のねらいに沿った学習活動の工夫・改善の視点から学習、ペア・グループ学習を見直すことや、より質の高い研修を進めて職員の意識の向上を図る必要がある。
- ESDカレンダーは、資質・能力表とともに完成させることができたが、ESDカレンダーの活用についてはまだ十分とはいえず、今後各教科等間の連携を一層明確にするよう、積極的な活用を進めたい。

4 今後の取組

本校は「批判的な思考力等」の育成に焦点を当て地域活性化へのエネルギーを育むことを目指し、教育課程全体でESDに取り組んだ。研究を進める過程で、ESDが様々な教育活動に結び付き、「教育の基盤としてのESD」を確認することができた。ESDの視点を持って教育活動に取り組むことは、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を持った生徒の育成に繋がると考える。来年度以降も引き続き、この研究に取り組み、ユネスコスクールへの登録を目指すとともに、県内の学校におけるESD研究の拡大、推進に貢献していきたいと考えている。

今後の取組内容

授業改善に繋がると考えている取組として

- ① ESDカレンダーの改善, 活用
- ② ESDの視点から、育成を目指す資質・能力の焦点化・重点化
- ③ ESDの一層の意識化(学校生活において日常的にESDに関わる取組の充実, 生徒会の活用)
- ④ 総合的な学習の時間を中心に据えた地域の教育資源の活用による生徒と地域のつながりの構築